

株価低迷で投資家圧力

稼ぐモデルの構築課題

創業者のジャック・ドーシー最高経営責任者（CEO）の退任で、米ツイッターの経営は転機を迎える。後任のCEOには、最高技術責任者（CTO）のブラグ・アグラワル氏が就いた。米SNS（交流サイト）企業のなかでツイッターは株価が伸び悩む。アクティビスト（物言う株主）から業績改善の圧力がかかるなか、稼ぐ事業モデルの構築が課題となる。

動履歴などに基づいてターゲティング広告の精度を高める米メタ（旧フェイスブック）に比べると利用は活発ではない。29日終値ベースの時価総額は366億ドル（約4兆1000億円）と、メタの約25分の1の水準だ。株価が上がらないツイッターの経営に対し、アクティビストは圧力をかけてきた。米エリオット・マネジメントは2020年春、ツイッターに対しCEOの解任要求を突きつけた。ツイッターはその後、エリオット側が指名する取締役を受け入れることで和解し、ドーシーもCEOの座にとどまった経緯がある。

投資家の不満はドーシー氏の経営手腕にもあった。ドーシー氏はツイッターの経営の第一線を離れていた09年に決済サービスの米スクエアを設立し、15年にニューヨーク証券取引所（NYSE）に上場させた。上場企業

のCEOを掛け持ちするのは米国では珍しく、投資家の間では二足のわらじを履くことへの懸念もくすぶっていた。

株主の業績改善の圧力が強まるなか、ツイッターは21年2月、23年の年間売上高を20年比約2倍の75億ドル（約8500億円）以上に引き上げる3カ年の経営計画を発表した。各国・地域でサブスクリプション（継続課金）型サービスを段階的に始めるなど収益源の多角化を進めるが、業績や株価は低迷している。

エリオットは29日、ツイッターの物語の次の章を楽しみにしている」とトップ交代を歓迎する声明を出した。ツイッターがトップ交代を発表した29日の米国市場で、ツイッター株は前週末に比べ3%下落して取引を終えた。アグラワル新CEOは業績改善の道筋を示せなければ、投資家からの激励は非難に変わる。